

まとめ：第2回「GM 熟議場 in 北大」（11月20日／11：00～16：30）

I. グループ討論「飼料を国産に転換？ 問題は何か。どんな問題が起こるか」 <第1グループ>

■自給率

- ・ 消費者のエコポイント：参加型の自給率向上
- ・ 自給率を高めることができる／メリットの啓発
- ・ 自給率向上に市民が参加できるシステムはないか

■現場を考えよ

- ・ 国内での<生産→飼料→農業商品>サイクルの新たな構築を丁寧に提案・説明すること
- ・ 実の場合のサイロ・工場・流通
- ・ 分別のシステム
- ・ 組織化の必要性 稲作：生産者グループ←→畜産：実需者グループ

■ルール

- ・ 栽培の実施、消費者の受容に手癖綱ルール作りが不可欠
- ・ 道庁は利害関係者に市民を加えて、飼料イネが地域で回るためのルール作りの議論をする

■GM・非GMかどうか選べる

- ・ 現状としてもう消費者はGM品を口にしていることを受容
- ・ 全部がGMにならないこと。経済的・量的に選択できる自由があること

■交雑

- ・ 交雑の問題を考える必要
- ・ 交雑の問題は起こらないという知識の普及

■品種改良

- ・ 栄養が高く、生産者にとって、配合しやすいもの
- ・ 品種（GM）の育性については、研究者の出番

■経済

- ・ 経済性については、事前のコスト分析が必要
- ・ 為替に振り回されない農業の形成となるかも
- ・ 収穫量が多く、コストが低いこと

<第2グループ>

■飼料イネの流通見込みあり

■作り手のため

- 除草剤耐性は絶対
- 地域の生産者もっともNOと言いたい保障
- ほとんどない交雑

■GM→牛→ミルク

- GMの正しい知識 食べている現実
- メリットとデメリットをはっきり示して、もう少し議論しては？
- 耕作放棄地よりも
- 風評被害

II. 全体討論のまとめの議論

① 共有できること と できないこと

■考えを共有できる

- ・ 飼料イネとしての GM は受容できるような気がする
- ・ 求める所があれば作っても良いと思う
- ・ 食料自給率を上げる～飼料米を作る
- ・ (飼料イネ・米を作ることは) 自給率の up につながる
- ・ (飼料イネ・米を作ることは) 自給率の向上

■考え方の分かれ目 (共有できない)

- ・ 食用 GM は抵抗がある
- ・ 飼料イネが OK になると他の GM イネも OK か?
- ・ 「米を基本として守るのが現在の農政」に立って、飼料イネを GM にすることのメリットと問題点が見えた

② 次回以降の検討課題 (GM 飼料イネ・米を作るとしたらどんな問題が出てくるか)

■備えてほしい特性と技術開発について

- ・ GM 飼料イネとして開発してほしい特性を明確にする
- ・ GM 品種ということで、作物別、導入形質別、それから作られる製品 (食) 別に、遺伝子を組み換えた時に受容できるかどうかを整理する
- ・ どのような飼料稲なら長期的にビジネスになるか

■備えてほしい特性とコミュニケーション

- ・ 北海道の中で基盤となる農業や畜産を考えた (時の) 作物のあり方と消費者の理解
- ・ 利用する側の意見を聞いて GM の中を考えてほしい
- ・ GM を作るメリット、デメリットの情報提供の方法

■政策として考えなければならないこと

- ・ 食糧政策としてどうなのか? 先を考えると、人口減少と必要量が分からない
- ・ 効果のあるルールを作ることができるか
- ・ 北海道に適した飼料イネ (GM でなくても) の研究にどの位 (経費が) かかるのか?

■あと 10 年間 non-GM を貫けるかを問う

■大豆は作りたい